

第五十三條各國ハ前條ニ定メタル批准書ノ保管アルマテ本條約ニ記名スルコトヲ得ルコト其以後ニ於テハ各國ハ何時ニテモ蘭國政府ニ通告ノ上何等條件ヲ有セスシテ本條約ニ加盟スルコトヲ得ルコト等、第五十四條本條約ハ批准書交換後六ヶ月ヲ經テ實施セラルルコト加盟ハ蘭國政府ニ通告後六十日ヲ經テ効力ヲ生スルコト國際審檢所ハ批准交換後又ハ加盟通告後捕獲國審檢所ニテ檢定シタル事件ヲ審理スルヲ得ルコト、第五十五條本條約ハ實施後十二年間効力ヲ有スルコト明ニ廢棄セラレサル時ハ六カ年毎ニ更新セラルヘキコト等、第五十六條各國ニ於テ批准セサル場合ニ

ハ評議會ニ於テ批准國ヨリ選出スヘキ判事及豫備判事ノ配當表ヲ作ルコト判事ノ總數十一名ニ充タサル時ハ必ス列席ヲ要スヘキ判事ハ七名トスルコト等、第五十七條判事等ノ配當表改正手續ニ関スルコト
右ノ外審檢手續等ノ規定ハ長文ニ渉ルヲ以テ之ヲ省略ス必要アラハ直ニ電報スヘシ

第四節 開戦ニ関スル宣言關係

二五〇 明治四年七月三日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戰鬪開始ニ関スル仏國提案ニ対スル露國ノ贊成
宣言報告ノ件

七月三日 後七、三五 海牙發
七月四日 前一、〇八 東京着

林外務大臣

都筑大使

第三八号

露國委員ハ六月廿九日ノ第二委員會分科会ニ於テ戰鬪開始ニ関スル仏國提案ニ贊成ノ趣宣言セリ然レトモ他ノ重ナル諸國ハ未タ本件ニ関スル意見ヲ發表セス

註 仏國提案ハ前掲二一四文書末項參看

二五一 明治四年七月五日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戰鬪開始ニ関スル仏國ノ提案ニ対スル列國ノ態度報告並ニ右ニ對シ任意裁量ノ權限附与方稟請ノ件

七月五日 後二、四〇 海牙發
七月六日 前五、四五 東京着

林外務大臣

都筑大使

第三九号

本日開会セル第二委員會第二分科会ニ於テ英米以外ノ諸大國ハ皆戰鬪開始ニ関スル仏國ノ提案ニ贊成セリ英米兩國委員ハ夫々本國政府ニ請訓中ナリ恐ク仏國提案ノ意義明確ヲ缺クニ依ルナラム獨逸及其他ハ何等留保ナク同案ニ贊成セリ本官思フニ若シ英米兩國ニシテ同案ニ贊成セバ我モ亦英國ト歩調ヲ共ニシ以テ本問題ニ関シテ孤立ノ地位ニ陥ラサル方日本ノ為利益ナルヘシ就テハ本件ニ関シ本官ニ任意裁量ノ權限ヲ与ヘラレムコトヲ希望ス右至急何分ノ御回電アリタシ仏國提案ノ原文ハ別電第四〇号ヲ以テ報告スヘシ

二五二 明治四年七月五日 在海牙都筑大使ヨリ

林外務大臣宛(電報)

戦闘開始ニ関スル仏国ノ提案報告ノ件

七月五日 後二、四〇 海牙発
七月六日 前五、五〇〇 東京着

林外務大臣

都筑全権大使

第四〇号

戦闘開始ニ関スル仏国提案

一、各締約国ハ明確ナル豫告ナクシテ相互ノ間ニ敵抗行為ヲ開始スヘカラサルコト及該豫告ハ理由ヲ記述セル開戦宣言ノ形式ヲ以テスルカ又ハ條件附開戦宣言ヲ伴フ最後通牒ノ形式ヲ以テスヘキコトヲ承認ス

二、戦争状態ノ成立ハ之ヲ遲滞ナク中立国ニ通告スルコトヲ要ス

二五三 明治四年七月七日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戦闘開始ニ関スル仏国提案ニ対スル米國ノ態度

報告ノ件

七月七日 後三、〇五 海牙発
七月八日 前七、三〇 東京着

一、都筑大使ノ裁量ニ一任スルヲ可ナリト認ム理由

国際紛争ヲ外交上ノ手段ヲ以テ処理スルコト能ハサル場合ニ抗敵行為ヲ開始スル以前相手国ニ明確ナル豫告ヲ与フルコトハ從來ノ慣例ニ徴スルモ其必要ナク又理論上必スシモ之ヲ必要ナリト謂フコトヲ得ス加之自ラ進んで戦争ヲ開始セントスル国ニ取リテハ此ノ如キ手續ハ何等ノ便利ナクシテ却テ不利益ヲ生スヘシ然レトモ抗敵行為ヲ開始スル前豫メ相手国ニ対シ宣戦スルコトヲ要ストハ夙ニ大陸學者ノ主張スル所ニシテ之ニ対シテ從來ノ慣例ハ必スシモ之ヲ必要トセス且又国交際ノ密接ト交通機關ノ發達トハ之カ必要ヲ消滅セシメタリト謂フ外他ニ反対スヘキ強固ナル積極的理由アルニ非ス故ニ大陸諸國ノ仏國案ニ賛成スルハ怪ムニ足ラサル所ニシテ英米兩國ト雖モ或ハ之ニ反対セサルヘシ若シ兩國ニシテ該案ニ賛成スルニ於テハ我國獨リ孤立シテ之ニ反対スルモ其効ナカルヘシ故ニ本案ニ付テハ同盟國タル英國ト歩調ヲ一ニスルコト帝國ノ為メ得策ト認ム

且又之ヲ實際上ヨリ觀察スルニ仏國ノ提案成立スルモ格別不利益ヲ生セサルヘシ何トナレハ艦隊又ハ軍隊ノ出動

第六章 會議ノ進行、開戦宣言 二五五

林外務大臣

都筑全権大使

第四六号

米國政府ハ敵抗行為開始ニ関スル仏國提案ヲ何等ノ留保ナク承諾スルノ権限ヲ其委員ニ与フルナラム

二五四 明治四年七月九日 在海牙都筑大使ヨリ

林外務大臣宛(電報)

戦闘開始ニ関スル仏國ノ提案ニ対シ帝國ノ態度

回訓ノ件

附記 右件ニ関スル海軍側意見覚書

七月九日 後二時發

在海牙 都筑大使

林外務大臣

第一七号

貴電三九号ニ関シ御意見ノ如ク英國ト同一ノ歩調ヲ採ラルベシ

註 右件海軍次官ヨリ届ケラレタル海軍側意見

覚書附記ス

(附記)

戦闘開始ニ関スル仏國提案ニ対スル海軍側意見

覚書

ハ必スシモ之ヲ抗敵行為ト謂フヲ得ス故ニ將來戦争ヲ開始スルノ必要アルトキハ相当ノ戦備ヲ整ヘタル後條件附ヲ伴フ最後通牒ヲ送り特定ノ期間ヲ経過スルト同時ニ攻撃ヲ加フルカ又ハ開戦ノ豫告ヲ為シテ後時ヲ移サス攻撃ヲ加フル事ヲ得可ク從テ現今ノ情態ニ在ルト大差ナケレハナリ即チ本案ハ成立スルモ事實上交戦國ニ対スル戦闘行為ノ大ナル檢束トナラサルモノナリ

要スルニ本問題ハ國際法上重要問題ノ一ナルニ拘ハラス實際ニ於テハ列國ノ趨勢ニ反シテ争フ程緊切ナルモノニ非ス故ニ之ニ関シテハ前記ノ如ク処理スルヲ以テ帝國ノ利益ト認ム

二五五 明治四年七月九日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戦闘開始ニ関スル仏國ノ提案ニ対スル英國ノ態度報告並右ニ対スル帝國ノ意嚮回訓方稟請ノ件

(一)

七月九日 前六、五〇 海牙発
七月九日 後九、五〇〇 東京着

林外務大臣

都筑大使

第五〇号

英政府モ亦仏国提案ニ同意スヘキ旨同国委員ニ訓令スヘキ模様ナリ若シ右様相成ルトキハ当初ノ御訓令通ニテハ我邦ノミ孤立ノ地位ニ立ツノ虞アルヲ免レス折返シ電報三九ニ関シ電訓ヲ望ム

二五六 明治四年七月九日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戦闘開始ニ関スル仏国ノ提案ニ対スル英国ノ態度報告並右ニ対スル帝国ノ意嚮回訓方稟請ノ件

(一)

七月九日前一、二、三五 海牙着

東京着

林外務大臣

都筑大使

第五二号

英国委員ハ只今本国政府ヨリ仏国ノ提案ニ同意シ得ヘキ旨訓令ニ接シタリ佑テ本官ハ此際該案ニ反対シ独リ帝国ノミ孤立ノ地位ニ立ツハ甚ク不得策ナリト信ス本件ニ関シ電訓ヲ請フ

第五節 戦時禁制品全廃案

二五八 明治四年六月十五日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戦時禁制品全廃案提議ノ場合ニ於ケル態度ニ付
請訓ノ件

六月十五日 海牙着

東京着

林外務大臣

都筑全権委員

第三号

戦時封鎖ノ制度ハ之ヲ存置スルモ戦時禁制品ヲ全廢セントスルノ議案英国ヨリ提出セラレントスルノ模様アリ右ハ全然新規ノ問題ニシテ之レニ関シテハ不日本官ヨリ御訓令ヲ請フノ必要ヲ生スルコトアルベキニ依リ豫メ講究シ置カレ
ンコトヲ希望ス

二五九 明治四年六月六日

林外務大臣ヨリ
在蘭都筑大使宛(電報)

前件ニ関シ各国ノ意向取調方訓令ノ件

第六章 會議ノ進行、戦時禁制品全廃案 二五八 二五九 二六〇

註 電訓行違前掲二五四文書ノ通り、尙本件ハ九月七日總會ニテ可決

二五七 明治四年八月七日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

戦闘開始ニ関スル仏国ノ提案修正ノ件並ニ右ニ
対スル列国ノ態度報告ノ件

八月十七日 前一、五〇 海牙着

本省着

林外務大臣

都筑大使

第一〇一号

往電第二〇号ニ関シ

第二報告ノ戦闘開始ニ関スル仏案ハ調査委員ニ於テ審議ノ末第二項ヲ「戦争状態ノ成立ハ遲滞ナク中立ニ通知スヘシコノ通知ハ電報ニヨリナスコトヲ得戦争状態ハ通知受領後ニ非サレハ中立国ニ対シ効力ヲ生セズ但シ中立国ニシテ實際戦争状態ノ成立ヲ知リタルコト明白ナル場合ニ於テハ中立国ハ通知ナキコトヲ以テ抗弁スル事ヲ得ズ」ト修正シ第二委員会總會ノ投(票?)ニ付スル等右修正案ハ諸大國ノ既ニ承認セルモノナルガ故ニ多分通過スベシ

註 往電二〇号ハ前掲二一四文書末項參看

六月十八日 後四時五十分着

和蘭ニ於テ

都筑大使

大臣

第四号

貴電第三号ニ関シ戦時禁制品ノ制度ヲ全廢スルコトハ斬新且重大ナル問題ニ付豫メ本件ニ対スル各国ノ意嚮ヲ承知シ度キニ依リ右御取調ノ上御返電アリタシ

二六〇 明治四年六月六日

在海牙都筑大使ヨリ
林外務大臣宛(電報)

前件ニ関シ回報ノ件

六月十八日 海牙着

東京着

林外務大臣

都筑全権委員

第四号

貴電第四号ニ関シ